
特集 災害医療 一災害時における産業医の役割一

【巻頭言】

西村 明 儒 (徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部感覚運動系病態医学講座法医学分野)

大塚 雅 文 (徳島県医師会生涯教育委員会)

日本列島の周囲には、世界でも有数のプレートである北米プレート、ユーラシアプレート、フィリピン海プレートならびに太平洋プレートの境界があり、プレート境界型の地震が周期的に発生している。特に双子地震と呼ばれており、繰り返し被害を及ぼしてきた東海地震と南海地震は、前回の昭和に発生したものが比較的小規模であったことから、地震エネルギーの蓄積が早く、今後30年間に50から60%の確率で発生すると推定されている。南海地震は、これまでに和歌山、大阪、徳島、高知で建物倒壊や津波の被害を発生しており、これらの地域では、次の南海地震を警戒している。徳島県では、県南部の沿岸地域はもとより、最も人口の集中している徳島市でも建物倒壊ならびに津波被害が懸念されている。近年、わ

が国で大きな被害を発生した阪神・淡路大震災や新潟県中越地震では、就業中の被災は少なかったが、次の南海地震では就業時間中の発生も考慮する必要がある。職場での防災の重要性が高まっている。産業医の責務は、労働が心身に及ぼす悪影響による疾病予防ならびに心身の健康増進への寄与である。企業は労働者の集合体であり、企業と地域の結びつきの重要性を鑑みれば、地震災害時の産業医の役割は労働者の健康管理に留まらないと考える。本特集では、法医学—人的被害、地域医療—徳島市の応急救護所運営、精神医学—こころのケアの専門家の報告を紹介する。これらの経験が産業医の先生方のお役に立てればと考える。